

方剂名 書籍	効能	生薬組成 主治および証 病機 方意
補益剤 気陰双補剤 2		
<p>しゃかんぞうとう 炙甘草湯</p>	<p>益気滋陰・通陽復脈</p>	<p>炙甘草 12g・人参 6g・生地黄 30g・桂枝 9g・阿膠 6g・麦門冬・麻子仁・生姜各 9g・大棗 6g 阿膠以外を酒と水で煎じて滓を除き、湯で溶かした阿膠と混和し、分3で服用する。</p>
<p>傷寒論</p>	<p><主治> 心陰陽両虚 脈の結代あるいは虚数、動悸、息切れ、焦燥感、不眠、不安感、便が硬いあるいは便秘、舌質が淡、少苔～無苔などを呈す。 肺気陰両虚 乾咳、無痰あるいは少痰、痰に血が混じる、るい瘦、息切れ、自汗あるいは盗汗、咽の乾燥、便秘、ときに発熱、舌質が淡、少苔～無苔、脈が虚数などを呈す。</p> <p><病機> いずれも陰液、陽気が共に衰少した病態であるが、心と肺の違いがある。 心陰陽両虚の場合は、 心陽不足で、脈気が宣通されないために脈が結あるいは代を呈し、肺気に影響が及ぶと息切れがみられる。心の陰血が不足して心神が養われず不寧になるために、動悸、焦燥感、不眠、不安感などが生じる。便が硬いあるいは便秘は、陰血不足による腸燥である。脈が虚数、舌苔が少～無、舌質が淡は、陰血不足を表わしている。 肺気陰両虚の場合は、 肺気不足のために息切れ、自汗が生じ、肺陰虚の肺気不降で乾咳、無痰～少痰がみられる。久咳で肺絡が損傷されると痰に血が混じり、陰津不足で潤養されないで咽の乾燥、腸燥便秘、瘦せる、舌苔が少～無が生じ、陰虚内熱のために発熱、盗汗、脈が虚数を呈する。陰血不足による舌質は淡であるが、陰虚内熱では紅絳を現わすこともある。</p> <p><方意> 益気滋陰と、通陽を目的とする。 甘温の炙甘草が主薬で益気養心、生津し、益気健脾養心の人参・大棗が補助する。甘潤の生地黄・麦門冬・阿膠は陰血を滋養し、麻子仁は潤腸通便に働く。さらに、辛温の桂枝・生姜・酒により、温陽通脈して、血脈の流通を高める。全体で心気を補益し心陰血を滋養し、心陽を振奮させて血脈を復することができる。 肺気陰両虚に対しても、益気滋陰の効能により効果を現わす。</p> <p><参考> 脈結代は心陽不足を、動悸は陰血不足を示している。 「動」は脈の拍動を意味し、遅い脈（緩）で、ときに脈拍が欠落する（ときに一休止復来）のが「結」であり、一定の間隔で、かなり長時間欠落する（動いて中止み、自ら還ることあらず、よりてまた動く）のが「代」であり、「結」より「代」の方が程度が悪い。いずれも心陰不足で発生する。 肺気陰両虚に本方（炙甘草湯）を使用するのは、肺痿と同じ病態であるからである。ただし傷陰肺燥が強い場合には、桂枝・生姜・酒など辛温の薬物は陰津を損傷する恐があるので減去する必要がある。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 体力が衰えて、疲れやすいものの動悸、息切れ</p>	